

授業科目：老年看護学実習Ⅱ（健康障害のある高齢者の看護）

科目目標： 1 健康障害のある高齢者に、個別性・QOLを踏まえた看護が実践できる。

2 高齢者を取り巻く家族・ソーシャルサポートの状況をふまえ、必要な支援を考えることができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 健康障害のある高齢者の特徴が理解できる。	1) 健康障害の特徴 (1) 疾病・傷害の程度、経過 (2) 複数の疾患との関連 (3) 合併症・二次障害の出現の危険性	<ul style="list-style-type: none"> ・術後や終末期、急性～回復期にある後期高齢者を1名受け持ち看護を展開する。
2 加齢変化・健康障害が高齢者の生活機能に及ぼす影響を理解できる。	1) 加齢変化・健康障害が身体的・精神的・社会的側面に与える影響 (1) 加齢に伴う変化 (2) 生体防御機能、合併症の有無 (3) 入院環境への適応 (4) 疾患・治療に対する受け止め方 (5) 検査・治療が高齢者に与える影響 (6) 回復意欲・自発性 (7) 疾病や治療に伴う家族への影響 (8) 経済状況 (9) 安全を阻害する内的・外的要因	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は、本人だけでなく、周囲の人からも積極的に得る。 ・退院後の生活を見据えて、看護過程を展開する。
3 健康障害のある高齢者に、個別性・QOLを考慮した援助を実施できる。	1) 健康段階に応じた看護の実際 (1) 急性期 (2) 回復期 (3) 終末期 2) 高齢者や家族のQOLを考慮した看護の実際 (1) 価値観・信念・生活習慣を踏まえた援助 (2) 自尊心に配慮した援助 (3) セルフケア能力の維持・向上に向けた援助 (4) 環境適応への援助 (5) 回復意欲の維持・向上のための援助 (6) 事故や危険性を予測した安全な援助 (7) 尊厳・権利を考えた援助 (8) 退院支援に向けた援助 (9) 家族への援助	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地・実践活動外学習で、対象の安全を阻害する要因、尊厳・権利を守る倫理行動について話し合う。
4 家族への支援と他部門との連携・調整の方法がわかる。	1) 高齢者を取り巻く人間関係の理解 (1) 介護体制 (2) 介護者の負担 (3) 活用できる社会資源の種類と内容 (4) 他部門との連絡・調整などの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・退院や社会資源活用に関する調整（カンファレンスなど）には可能な限り参加する。 ・受持ち患者の退院・転院時には、他部門・他施設との連携・看護の役割について学ぶ。
5 高齢者への看護を通して学んだ高齢者観および高齢者看護を述べる事ができる。	1) 高齢者や家族のQOLを考慮した看護実践とは 2) 自己の高齢者観・高齢者看護	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスおよび考察で学びについて述べる。